科目名 <英語表記>	商法総合演習Ⅱ（企業取引法） Commercial Law Seminar 2	科目ナンバー		授業形態
		JAEPR8812		演習
担当者	小柿　徳武	開講期	単位数	必修・選択
		後期	2	必修

１．科目の主題

手形法および会社法（機関・計算等）

２．到達目標

手形法分野については、基礎的な概念を踏まえた上で、標準的な判例について学説の争いのもととなる問題意識を把握することを到達目標とする。会社法分野については、これまで修得した知識を、条文に立ち戻って再確認するとともに、いくつかの論点について俯瞰的かつ多面的に検討することにより、新たな問題点についても論理的に分析できる能力を身につけることを到達目標とする。

３．授業内容・授業計画

講義にあたっては、予習用レジュメにそって、基礎的概念および重要判例等を、適宜、質疑応答を通して検討する。受講生は、事前に十分な予習を行うことが求められる。

第１回：約束手形総論、約束手形の振出
第２回：約束手形の裏書
第３回：人的抗弁の制限、善意取得、特殊の裏書
第４回：手形保証、約束手形の支払、支払拒絶と遡求
第５回：手形の時効、手形の喪失、手形訴訟、白地手形
第６回：手形行為の意義、手形の交付・手形理論、手形行為と法律行為の一般原則
第７回：他人よる手形行為、手形の変造、手形行為と原因関係、利得償還請求権
第８回：為替手形、小切手、補論
第９回：会社法改正の流れ、機関総論、株主総会（権限、招集など）
第１０回：株主総会（決議、議事、決議の瑕疵など）、取締役（選解任、任期など）
第１１回：取締役（報酬）、取締役会
第１２回：取締役の損害賠償責任、株主代表訴訟、会計参与
第１３回：監査役、監査役会、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、会計監査人
第１４回：計算、自己株式
第１５回：期末試験

４．事前・事後学習の内容

授業の約１週間前に、次回のレジュメを Moodle にアップロードする。必ず事前に内容を確認し、予習を行った上で、授業に臨むこと。また、授業後は、内容を整理し、関連する条文等について再確認して、知識の定着を図ること。

５．教材

手形法分野については、予習用テキストの一つとして、大塚＝林＝福瀧『商法Ⅲ　手形・小切手〔第 4 版〕』(有斐閣 S シリーズ、2011)を挙げるほか、判例集として、落合＝神田編『手形小切手判例百選〔第 7 版〕』(有斐閣、2014)を使用する。
会社法分野については、判例集として、岩原紳作＝神作裕之＝藤田友敬編『会社法判例百選〔第 3 版〕』(有斐閣、2016)を使用する。参考文献として、江頭憲治郎『株式会社法〔第 7 版〕』(有斐閣、2017)などを指定する予定であるが、今後の公刊状況により変更する可能性がある。

６．評価方法	(絶対評価)・相対評価 質問や討論など演習への参加状況を 20%、期末に課す試験の結果を 80%の割合として評価する。
７.受講生へのコメント	会社法分野においては、予習の際に条文の確認を怠らないようにして下さい。